

# 第52回日本定位・機能神経外科学会を岡山で開催して

Hosting the 52nd Annual Meeting of the Japan Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery in Okayama

会長 伊達 勲 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経外科学)

Isao Date (Department of Neurological Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)



会長挨拶 (伊達 勲)

第52回日本定位・機能神経外科学会を2013年1月18日(金)と19日(土)の2日間、会長として岡山コンベンションセンターで主催いたしました。全国から約500名の脳神経外科医が参加し、全部で130演題について3会場で活発な討議が行われました。定位・機能神経外科は、パーキンソン病に対する脳深部刺激療法に代表される、脳神経外科のサブスペシャリティーの重要な分野であり、また、岡山大学脳神経外科が最も得意とする分野の1つでもありますので、本学会を岡山で開催できたことを大変光栄に感じますとともに、学会が成功裏に終了しましたことを関係の皆様

深く感謝申し上げます。

定位・機能神経外科では、新しいデバイスが次々に開発され、神経画像の発達とともに、新しい取り組みがさまざまな領域で始まっています。本学会のテーマを「飛翔の時：新たなステージへ」とし、今後さらに発展していくであろうこの分野を展望することといたしました。シンポジウムとしては、「脳・脊髄刺激療法：新しい取り組み」「ジストニア治療の進歩」「痙縮治療：適応の拡がり」「脳深部刺激療法：精度を高める工夫とその成果」「機能外科と神経画像：新しいステージへ」「機能外科における薬物療法」の6つを取り上げました。どのシンポジウムも主題に沿って熱心に討論いただきました。



本学会のポスター

後楽園と岡山城を切り絵にしてバックに使用。2羽の鶴の内、1羽は、定位脳手術装置の枠のところから天守閣を目標にしているイメージ図になっている。

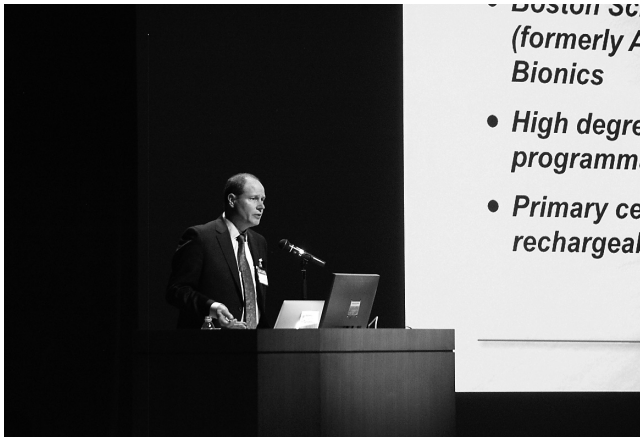
平成25年4月受理

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

電話：086-235-7336 FAX：086-227-0191

E-mail：idate333@md.okayama-u.ac.jp

特別講演には、米国から2人をお呼びしました。脊髄刺激療法の第一人者であるStanford大学のDr. Hendersonに、「慢性疼痛に対する脊髄刺激療法：40年の進歩」と題して、また脳深部刺激療法の第一人者であるカリフォルニア大学のDr. Starrに、「運動障害の病態を理解するための大脳皮質と基底核神経活動記



Dr. Henderson 特別講演



Dr. Starr 特別講演

録」と題して大変興味深い話をうかがい、その後の関連シンポジウムと合わせ、議論が深まりました。

本学会ならではの特別企画を2つ設けました。

特別企画1は、「電気刺激療法における新しいデバイスのコンセプト」を組みました。脊髄刺激療法と脳深部刺激療法の双方でデバイスの開発が急速に進んでいます。デバイスにどのような新しい機能を付加しようと考えているかを企業の方にお話いただき、それを利用している脳神経外科医から使用経験をお話いただくというセッションで、今後のデバイスの展開を占うことができたと思います。現時点でこれらのデバイスには、患者がどのような体位であるか（立位か臥位か）のセンサーがあり、それに応じて刺激部位を変化させることが可能になっている上、患者の体位の記録（どの体位でどのくらいの時間を過ごしているか）も残るようになっていて、今後の患者管理に極めて有用であることがうかがわれました。

特別企画2は「機能外科のための神経科学」と題して、「痛みの神経科学」に関して兵庫医科大学の野口光一先生に、「歩行の神経科学」に関して山口大学の森大志先生に教育的な講演をお願いしました。機能外科は神経科学の知識と発展が最も重要な役割を果たす分野であり、その中でも痛みと歩行は、直接外科的治療法に関わることで、有意義な特別企画となりました。

岡山大学脳神経外科教室では、この1年2ヵ月の間に全国学会を4つ主催（日本神経内視鏡学会、日本脳神経減圧術学会、日本小児神経外科学会、および今回の日本定位・機能神経外科学会）いたしました。皆様のご支援のおかげで無事4学会の運営を終了することができましたことを感謝申し上げますとともにこれからもご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。